

令和 2 年度 講義計画書

担当講師： 森 倫範	実務経験(有・無)	医学部研究室(医学博士)		
科目名・対象学科	からだの働き I			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	1 年	2 単位 (30)	前 期	講 義
一般目標(GIO)				
ヒトの生理機能を学ぶにあたり必要な生理学総論について教授します。続いて神経系を例に生体内情報伝達、運動の基本構成体である筋機能の順に理解できるよう講義を進めます。 半期を通じ、からだがどのような「仕組み」で動くかを関連付けながら学ぶことができる構成で進行します。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標 (SBOs) 等				学習のキーワード
生理学総論 生理学とは？ 神経の生理 神経の生理 筋組織の理解 筋の生理				細胞・細胞外基質 細胞内小器官 受動輸送と能動輸送 神経伝達物質と受容体 静止膜電位・活動電位 神経の伝導と伝達 高次機能・睡眠 自律神経調節 運動機能・反射 筋組織 筋紡錘・腱紡錘 運動調節・脳幹の調節 高次機能
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	生理学（南江堂、改訂第4版）、ガイトン臨床生理学（医学書院、第1版）等			
受講上の注意	毎講義、前回の講義内容を確認しつつ進めるため、内容を復習して講義に臨むことを心がけて下さい。理解できていない内容は、講義中・講義後に各グループ内や教員に確認することで、各回で理解するように努力して下さい。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：竹居光太郎	実務経験 有 ☒ 無 ☐			
科目名・対象学科	からだの働き II			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	1 年	2 単位 (30)	前 期	講 義
一般目標(GIO)				
生理学のうち、消化器系(消化と吸収)、泌尿器系(排泄)、内分泌系(ホルモン作用)、生殖器系(男性・女性生殖器と妊娠・出産)の基礎知識を学ぶ。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
消化器、泌尿器、生殖器、内分泌の各器官系の機能について理解する。 1) 消化器系の機能を説明できる。 ・胃、十二指腸、小腸、大腸、肝臓、膵臓の機能が理解できる。 2) 泌尿器系の機能を説明できる。 ・糸球体濾過、再吸収と分泌、体液調節機構が理解できる。 3) 生殖器系の機能を説明できる。 ・男性生殖器と女性生殖器の機能が理解できる。 ・妊娠、出産の仕組みを理解できる。 4) 内分泌系の機能を説明できる。 ・各内分泌器官のホルモンとその作用を理解できる。 ・ホルモンの欠乏と過剰による病気を理解できる。				胃、胃液、十二指腸、膵液 小腸、小腸液、大腸 肝臓、膵臓、胆汁 糸球体濾過、再吸収、分泌 最大輸送量、GFR レニンアンジオテンシン系 男性生殖器、女性生殖器 精子形成、性周期 妊娠、出産 液性情報伝達系 視床下部、下垂体、松果体 甲状腺、副腎、膵臓、心臓 性腺、胸腺、腎臓、消化器
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	指定教科書「生理学」（南江堂）			
受講上の注意	全出席することを原則とし、授業内容のノートをしっかり取ること。また、教科書の該当する項目を自主学習すること。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：小口岳史	実務経験 (有)・無	大学医学部・歯学部解剖学研究室（医学博士）		
科目名・対象学科	からだの仕組み I			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	1 年	2 単位(30)	前 期	講 義
一般目標(GIO)				
解剖学総論・骨格系・体表解剖について、正常な構造を学び、臨床的な応用ができるように理解する				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
解剖学概論について理解する 1) 解剖学総論・組織学・発生学について説明できる 筋肉系について理解する 1) 筋肉の一般的な形状、機能について説明できる 2) 頭部の筋について説明できる ・個々の筋の形状・関節の詳細について図示し説明できる 3) 胸部の筋について説明できる ・個々の筋の形状・関節の詳細について図示し説明できる 4) 腹部の筋について説明できる ・個々の筋の形状・関節の詳細について図示し説明できる 5) 背部の筋について説明できる ・個々の筋の形状・関節の詳細について図示し説明できる 6) 上肢の筋について説明できる ・個々の筋の形状・関節の詳細について図示し説明できる 7) 下肢の筋について説明できる ・個々の筋の形状・関節の詳細について図示し説明できる				細胞の基本構造・組織の種類 ・解剖用語 筋頭・筋尾・起始・停止・ 支配神経・分類・補助装置 咀嚼筋・顔面筋 浅胸筋・深胸筋・横隔膜・ 呼吸運動 前腹筋・側腹筋・後腹筋 浅背筋・深背筋第1層・ 固有背筋 上肢帯筋・上腕の筋・ 前腕の筋・手の筋 下肢帯筋・大腿の筋・ 下腿の筋・足の筋
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	指定教科書「解剖学」			
受講上の注意	全出席することを原則とし、授業内容よく徴候してノートをしっかり取ること。また、疑問点を放置せず、調べたり質問したりして必ず自己解決すること。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師： 飯村 彰	実務経験(有・無)	大学医学部・歯学部研究室（医学博士）		
科目名・対象学科	からだの仕組みII			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	1 年	2 単位(30)	前 期	講 義
一般目標(GIO)				
生殖器・神経系・内分泌系の正常構造と機能を理解し、それらの臓器のおもな疾患の原因、病態生理の理解と診断への関連付けができる基礎を学ぶ。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
◆生殖器系について 1) 男性生殖器系(精巣・精管・尿道)の構造を説明できる。 2) 女性生殖器系(卵巣・卵管・子宮)の構造を説明できる。 神経系について 1) 脳の各部位の形態、皮質、神経核のつながりを説明できる。 2) 脊髄について説明できる。 3) 脳神経について説明できる。 4) 脊髄神経、自律神経について説明できる。 ◆内分泌系について 1) 内分泌器の種類と構造について説明できる。 2) 分泌物の種類について説明できる。				精巣、精管、前立腺 卵巣、卵管、子宮 左右心房・心室、弁 大脳、大脳皮質、大脳核 脊髄、前根、後根、脊髄神経節 脳12神経、 交感神経、副交感神経 脳下垂体、松果体、甲状腺 副腎、精巣、卵巣
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	指定教科書「解剖学」。 参考：イラスト解剖学（中外医学）、解剖学講義（南山堂）			
受講上の注意	全出席することを原則とし、手を動かして図を描く事。反復して学習する事。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師： 小林 康孝	実務経験 有・無	医学部 生理学研究室（医学博士）		
科目名・対象学科	健康科学			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	1 年	2 単位 (30)	前期	講 義
一般目標(GIO)				
生命維持の必須機能に恒常性維持があり、生理学の中心課題になる。加えて、生体の持つ特徴に生体適応が挙げられる。それは、適切な生体刺激による機能の向上として捉えられる。この「健康科学」では、体力の維持・増進ならびに健康づくりに必要なスポーツ(医)科学の基礎と応用について学ぶ。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
健康科学における次の概要を整理・理解する。 1) 健康づくり運動 の概要を説明できる。 2) 運動性貧血 の概要を説明できる。 3) スポーツ心臓 の概要を説明できる。 4) 呼吸系への運動効果 の概要を説明できる。 5) 筋グリコーゲン増量法 の概要を説明できる。 6) 運動強度の把握法 の概要を説明できる。 7) 運動量の把握法 の概要を説明できる。 8) 運動時の腎機能 の概要を説明できる。 9) 暑熱下の運動 の概要を説明できる。 10) 運動時の内分泌調節 の概要を説明できる。 11) 運動性無月経 の概要を説明できる。 12) 骨への運動効果 の概要を説明できる。 13) 筋への運動効果 の概要を説明できる。 14) 運動調節 の概要を説明できる。 15) 運動の習熟 の概要を説明できる。				健康日本21、ルーの3原則 献血、高地トレーニング 血圧変動、心拍出量 換気量、肺でのガス交換 消化・吸収、BMI 酸素摂取量、METS エネルギー平衡、歩・走運動 体液浸透圧、体液量 体熱平衡、暑熱順化 ストレス応答、副腎 性周期、卵胞ホルモン 骨形成、骨吸収 遅筋、速筋 随意運動、不随意運動 前庭動眼反射、筋紡錘
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	教科書は、特に用いない。指定教科書「生理学」「解剖学」が参考書になる。			
受講上の注意	講義内容を板書するので、受講者は聴いて・見て・書いての作業を繰り返して科学的法則性を整理・理解する。したがって、[出席] はノート提示を必要条件とする。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：杉山明枝	実務経験(有・無)			
科目名・対象学科	外国語			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	1 年	2 単位(30)	前 期	講義
一般目標(GIO)				
医療人・柔道整復師として必須の医学英語、概念、表現を習得する。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
柔道整復師として外国人患者とのコミュニケーション能力を養うべく、基礎的な医学英語表現を中心に習得する。 1) 骨格・骨格筋に関する表現を英語で表現できる 2) 肩と膝の関節構造に関する表現を英語で表現できる 3) 手の骨と筋、足の骨と筋に関する表現を英語で表現できる 4) 受付・問診・診察・会計等、柔道整復師の業務に必要な一連の流れを英語で表現できる 5) 一般的な医学英語表現、医療英単語を理解できる。				骨格 骨格筋 関節 業務用英語表現 医療英単語
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	『学生のためのカレントメデイカルイングリッシュ 第4版』 医学書院 飯田恭子 『柔道整復師のための外国人対応ハンドブック【英語版】』 九段日本文化研究所 大城慶太			
受講上の注意	全授業出席を原則とし、予習・復習をしっかりとる。教科書など忘れ物をしない。私語をしない。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：利根 竜兵	実務経験(有・無)	附属接骨院勤務、湘南ベルマーレ育成トレーナー		
科目名・対象学科	解剖学 I			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	1 年	2 単位(30)	前 期	講義
一般目標(GIO)				
骨・関節・筋・靱帯の構造と機能を学び、臨床に役立つ知識を身につける。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
運動器の構造と機能について理解する。 1) 骨・軟骨・関節・靱帯の構造と機能を説明できる。 ・構造物の名称とその役割りが理解できる。 2) 四肢の骨・関節を列挙し、主な骨の配置を図示できる。 ・骨の各部の名称が理解できる。 3) 頭蓋および椎骨の構造と脊柱の構成を説明できる。 4) 四肢の主要筋群の運動と神経支配を説明できる。 ・筋の付着部（起始・停止）が理解でき、その付着筋が説明できる。 5) 骨盤の構成と性差を説明できる。 6) 骨の成長と骨形成・吸収の機序を説明できる。 7) 姿勢と体幹の運動にかかわる筋群を概説できる。				骨組織、プロテオグリカン 骨代謝、筋の起始停止 関節の種類（関節の形状） 単関節、複関節 抗重力筋 運動神経の走行
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	指定教科書「解剖学」			
受講上の注意	マナーよく受講すること。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師： 芝 明朗	実務経験 (有)・無	講道館柔道 6 段		
科目名・対象学科	柔道 I			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	1 年	1 単位(30)	後 期	実技
一般目標(GIO)				
柔道の創始者嘉納師範は、柔道は「心身の力を最も有効に使用する道である」また、「日常生活の動きのほとんどが含まれている」と言われております。「怪我を防ぐ・逆に怪我につながる動き」等を体験して、怪我の原因等との関連性を考慮し、症候、診断と治療法のヒントにつなげる。そこで、柔道の基本を学ぶことによってこれら問題の解決の糸口を身につける。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
武道(柔道)本来の身体の使い方、動作について理解し実践する。 1) 姿勢・進退体捌・崩し・つくり・掛け・組み方・受身を正確に実践できる。 ・柔道衣の着方・帯の結び方・たたみ方・姿勢(自然本体・自護本体)・礼法(立座) ・受身の安全な取り方、倒れる方向によって違う身体の動きを理解する。 ・取と受けを理解し、組み方・崩し方・受け方及び進退体捌の方法を理解する。 ・安全な動作、危険な動作を理解し「崩し・つくり」の約束練習が出来る。 2) かかり練習及び約束練習 ・手技(体落)組み方(釣り手・引手)・技の掛け方⇒取・受の正しい姿勢 ・腰技(大腰)…同上 ・足技(大外刈・出足払・膝車・大内刈)…同上 ・約束練習で互いに取受け動作が正確に、安全に出来る。 3) 次年度に実施する「投の形」を紹介し注意事項等説明する(諸動作・礼法・体捌き等)				基本動作 動作及び使い方 正しい姿勢とは 後方及び前方 崩し・つくり・掛け 運動の法則、抗重力機構 安定(立位)姿勢 身体の使い方・動き 同上 同上
成績評価	科目評価試験、授業態度(出席状況含む)、授業中の確認試験(小テスト等)、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	「柔道実技 虎の巻」 発行所 株式会社メディアパル 著者 森脇 保彦			
受講上の注意	全出席することを原則とし、柔道は難しい、経験が無いから無理などを理由に諦めずに挑戦すること。柔道の体験を通して身につける身体の動き・使い方は整復の治療方法に関連することが多い。形だけ真似をするのではなく積極的な取り組みを期待します。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：佐藤 洋平	実務経験 (有)・無	鍼灸接骨院勤務 スポーツジム(メディカル担当)		
科目名・対象学科	基礎柔整学 I			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	1 年	2単位(30)	前 期	講 義
一般目標(GIO)				
柔道整復師の歴史や倫理綱領、業務範囲と共に骨折の基礎知識や痛みについての基礎知識を身につける。また骨折の合併症について誘因、原因、発症時期などを学び指定する部分に関しては説明できるようにする。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
1. 柔道整復師の沿革を学び心得や業務範囲を説明できる。 2. 損傷時において人体に加わる外力や急性・慢性の概念を説明できる。 3. 疼痛の基礎知識や評価法などを学び、初学年におけるレベルで痛みについて説明できるようになる。 4. 骨の構造を理解し血管構造や層板構造を説明できる。 5. 骨折の定義を学び、完全骨折、不全骨折の種類を説明できる。 6. 骨折の固有症状と一般外傷症状の違いを理解し、また固有症状を認めやすい骨折の条件を説明できるようになる。 7. 小児と高齢者の骨構造の違いを理解し骨折の仕方や部位の違いについて説明できるようになる。 8. 合併症の発生時期や原因を理解し、それぞれの注意点を説明することができる。 9. 整復や固定の原則を理解し整復、固定法の適応を説明する事ができる。				柔道整復術、業務範囲 急性、亜急性、慢性 直達、介達外力 炎症、自由神経終末、 Aδ線維、C線維、痛みの評価 皮質骨、海綿骨、骨端軟骨 完全骨折、不全骨折、疲労骨折 軋轢音、異常可動性、転位と変形 解剖学的治癒、機能的治癒 治癒速度、高齢者骨折、小児の骨の特徴 併発症、続発症、後遺症 牽引直圧法 屈曲整復法
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	柔道整復理論第6版 ※授業ではプリントを配布（A4orA3）するのでクリアファイルを準備してまとめられるようにしておきましょう。			
受講上の注意	①その講義ごとに集中して内容を覚えること。（時間は有限です） ②配布した授業プリントはよく考えて使用する事。（テスト前の再配布は致しません） ③講義内容に関係のない行為は決してしないこと（スマホ操作や度を超えた居眠りなど）			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師： 青木 圭輔	実務経験 (有)・無	接骨院勤務、付属接骨院勤務、スポーツトレーナー活動		
科目名・対象学科	基礎柔整学Ⅱ			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	1 年	2 単位(30)	前 期	講義
一般目標(GIO)				
関節を構成する組織の損傷の脱臼、靱帯損傷、筋損傷、神経損傷の総論を理解し習得する。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
関節、筋、腱、神経の構造と機能について理解し説明できる。				軟骨、靱帯、骨格筋、神経線維
関節構成組織損傷の、分類、症状、合併症について理解し説明できる。				損傷程度の分類、関節不安定性
脱臼の定義、概説、分類、症状、合併症、整復障害、経過と予後について理解し説明できる。				外傷性脱臼、固有症状、整復障害
筋の損傷の概説、分類、症状、治癒機序、予後について理解し説明できる。				外傷性筋損傷、筋挫傷
腱損傷の概説、分類、症状、治癒機序、について理解し説明できる。				外傷性腱損傷、程度による分類
末梢神経損傷の概説、分類、症状、治癒機序について理解し説明できる。				セドン、サンダーランドの分類
脱臼の整復法について理解できる。				非観血的治療、一般原則
軟部組織損傷の初期治療について理解できる。				捻挫・損傷・神経損傷の初期処置
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	柔道整復学 理論編			
受講上の注意	予習、復習をして授業に積極的に参加すること。 授業中の飲食、携帯電話の使用は厳禁とする。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：赤堀 真紀	実務経験 (有)・無	接骨院勤務		
科目名・対象学科	臨床柔整学 I			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	1 年	2 単位(30)	前 期	講義
一般目標(GIO)				
上肢のメジャーな外傷について理解し、説明ができる。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
1) 上肢の主要な骨折について理解し、説明ができる。 一発生機序、症状、合併症、治療法がわかる。 2) 上肢の主要な脱臼について理解し、説明ができる。 一発生機序、症状、合併症、治療法がわかる。 3) 上肢の主要な軟部組織損傷について理解し、説明ができる。 一発生機序、症状、合併症、治療法がわかる。				鎖骨骨折、上腕骨外科頸骨折 コーレス骨折、ボクサー骨折 肩関節脱臼、肘関節後方脱臼、 肘内障、PIP関節脱臼 腱板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	柔道整復学・理論編（南江堂）			
受講上の注意	授業に関係のない行為は慎むこと。 資料の再配布はしないので各自で保管すること。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：小橋 俊秀	実務経験 (有)・無	昭和53年小橋接骨院開院平成12年閉院以後クリニック経営		
科目名・対象学科	基礎実技 I			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	1 年	1 単位(40)	前 期	実技
一般目標(GIO)				
基本包帯の巻き方、包帯固定の目的範囲及び冠名包帯法の習得(白衣着用必要、単位取得試験の受験資格は8割以上の出席を要す)				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
1. 巻軸帯の巻き方と注意事項 2. 基本包帯法(環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯、亀行帯、麦穂帯)の習得 3. 冠名包帯法の巻き方の習得 4. 体の各部位の固定が包帯を使用して完全にできるように 5. 巻締の強さ、均等な圧、美しさの3点を備えた包帯が巻けるように 6. 出来るだけ早く包帯を巻けるように練習する				巻軸帯 基本包帯法 デゾー ウェルボー ジュール
成績評価	科目評価試験、授業態度(出席状況含む)、授業中の確認試験(小テスト等)、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	包帯固定学			
受講上の注意	欠席をしないように			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師： 鳥海 剛史	実務経験(有・無)	整形外科勤務・鍼灸整骨院勤務		
科目名・対象学科	基礎柔整実技 I			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	1 年	1 単位(40)	前 期	実 技
一般目標(GIO)				
身体の各部位、筋、骨、関節、ROMなどの名称、位置、働き等を覚え柔道整復師としての基本を学ぶ。 実際に診察・触診が出来るようになる為の基礎を学ぶ。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
触診の基本について学ぶ。 身体各部位の名前、解剖学的用語、動きを確認し理解する。 患者に不安感、不快感を与えない触診を考え、実践する。 上肢の骨について学ぶ。 上肢の各骨を確認し位置やランドマークを学ぶ。 各骨に起始・停止する筋をからめて学ぶ。 上肢の靱帯について学ぶ。 肩関節複合体に関連する靱帯を学ぶ。 肘関節複合体に関連する靱帯を学ぶ。 中手指節関節に関連する靱帯を学ぶ。 上肢の筋について学ぶ。 肩甲上腕関節に関する筋を触診し学ぶ。 肩甲胸郭関節に関する筋を触診し学ぶ。 肘関節・手関節に関する筋を触診し学ぶ。 下肢の骨について学ぶ。 下肢の各骨を確認し位置やランドマークを学ぶ。 下肢の靱帯について学ぶ。 スカルパ三角の構成を学ぶ。 下肢の筋について学ぶ。 股、膝、足に関する筋を学ぶ。				基本的立位肢位・解剖学的立位肢位 運動面・軸・方向 姿勢・指の当て方 肩甲骨・鎖骨・上腕骨・橈骨 尺骨・手根骨・指骨など 烏口肩峰靱帯・菱形靱帯 円錐靱帯・橈骨輪状靱帯 肘・指の側副靱帯など 三角筋・大胸筋・回旋腱板 僧帽筋・肩甲挙筋・菱形筋 長掌筋・橈、尺側手根屈筋など 骨盤骨・大腿骨・脛骨・腓骨など 鼠径靱帯・縫工筋・長内転筋 大腿四頭筋・半腱半膜様筋など
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	運動療法の為の機能解剖学的触診技術（上肢・下肢）改訂第2版 メジカルビュー社			
受講上の注意	実技なので常に積極的に取り組む事。授業は必ず学校指定の実習着を着用する事。アクセサリ等は外す事。常に清潔を心がける事。進行状況によりハーフパンツやTシャツ姿になる様指示する事がある。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師: 安納弘道	実務経験(有・無)	医学部研究室助手(医学博士)・大学講師		
科目名・対象学科	解剖学Ⅲ			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	2 年	2 単位(30)	前 期	講 義
一般目標(GIO)				
身体の情報ネットワークシステムである神経系と感覚器系の構成因子の正常構造と正常機能について理解する。神経系と感覚器系の構造・機能を理解し、多種の運動障害との関係を考察できる基礎知識を習得する。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
神経系				
(1) 神経系の基礎:	「神経細胞の基本」「白質・灰白質の相違」「中枢神経系の構成について」「脳室の広がり」と髄液循環」「脳・脊髄の保護・中枢神経を包む膜」について説明できる。		ニューロン・軸索・樹状突起 シュワン細胞・グリア細胞・シナプス・髄液循環	
(2) 脳・脊髄・伝導路・末梢神経-1	「脳の主要部位の名称と機能」「脊髄の構造と機能」「情報の伝導路」「末梢神経の分類と機能について」説明できる。		神経細胞・神経線維・上行性/下行性伝導路・反射弓・錐体路・錐体外路・体性神経系・自律神経系	
(3) 脳・脊髄・伝導路・末梢神経-2				
(4) 脳・脊髄・伝導路・末梢神経-3				
(5) 脳神経・脊髄神経-1	脳神経・脊髄神経の走行・分布及び支配領域とその機能について説明できる。		感覚神経・運動神経・副交感性線維・迷走神経・頸神経・胸神経・腰神経・仙骨神経・尾骨神経	
(6) 脳神経・脊髄神経-2				
(7) 脳神経・脊髄神経-3				
(8) 自律神経系	自律神経系と体性神経系について説明できる。			
感覚器				
(9) 皮膚/筋・腱・関節の感覚器	皮膚の構造と機能について説明できる。 皮膚・筋・腱・関節の感覚受容器の構造と機能について説明できる。		パチニ小体・筋紡錘・腱器官	
(10) 視覚器	眼の構造と機能・視覚伝導路について説明できる。		cone/rod細胞・黄斑・中心窩	
(11) 聴覚器・平衡器-1	外・中・内耳の構造について説明できる。聴覚と平衡感覚の受容器/伝導路について説明できる。		アブミ骨・骨迷路・コルチ器・蝸牛・膨大部稜・平衡斑	
(12) 聴覚器・平衡器-2				
(13) 味覚器/嗅覚器	舌の構造と伝導路について説明できる。 鼻腔の構造と伝導路について説明できる。		乳頭・味蕾・嗅粘膜・嗅索	
成績評価	科目評価試験、授業態度(出席状況含む)、授業中の確認試験(小テスト等)、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	解剖学 岸 清・石塚寛 医歯薬出版株式会社			
受講上の注意				

令和 2 年度 講義計画書

担当講師： 森 倫範	実務経験 (有)・無	医学部研究室(医学博士)、病院勤務、医院勤務		
科目名・対象学科	生理学Ⅲ			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	2 年	2 単位(30)	前 期	講義
一般目標(GIO)				
1年次で学習したヒトの生理機能について、情報伝達系を中心に全体の理解を深める。 講義内容は項目とは別に生理機能全体の内容を関連付けながら進める。 本講義を通じて、情報伝達系のみならず、他の生理機能との相関を理解する。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
内分泌について理解を深める。 神経系について理解を深める。 感覚の生理学について理解を深める。				膜受容体、核内受容体 各種ホルモン 静止膜電位、活動電位 興奮の伝導と伝達 神経の種類 情動行動の調節 新皮質運野の機能 高次機能 体性感覚 痛覚 嗅覚・味覚・視覚 聴覚・前庭感覚
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	生理学（南江堂、第3版）、ガイトン臨床生理学（医学書院、第1版）等			
受講上の注意	1年次の講義内容を確認しつつ進めるため、内容を復習して講義に臨むことを心がけて下さい。理解できていない内容については、講義中・講義後に各グループや教員に確認することを意識し、毎回確認しながら進めるようにして下さい。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：田中ゆり子	実務経験 (有)・無	医学部研究室(医学博士)		
科目名・対象学科	病理学概論			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	2 年	2 単位(30)	前 期	講義
一般目標(GIO)				
疾病の成立ちや成因を理解し、全身の臓器や組織に発生する病態を学ぶ。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
① 病理学とは、病因とは何かを説明できる。				病理学の手法、分類、病因
② 病因における内因と外因の違いについて説明できる。				内因、外因、放射線障害
③ 退行性病変の定義、分類、特徴について説明できる。				萎縮、変性、壊死、アポトーシス
④ 代謝異常について原因物質別に疾患を説明できる。				蛋白質、糖質、脂質代謝障害
⑤ 循環系の構造と機能、血液の循環障害の定義、分類、特徴について説明できる。				充血、うっ血、虚血、出血
⑥ リンパ液の循環障害、脱水症、高血圧症の定義、分類、特徴について説明できる。				浮腫、脱水症、高血圧症
⑦ 進行性病変、病的増殖の定義、分類、特徴について説明できる。				肥大、再生、化生、創傷治癒
⑧ 炎症の定義、原因、特徴について説明できる。				炎症細胞、伝達物質
⑨ 炎症の分類、各特徴について説明できる。				滲出性炎、増殖性炎、特異性炎
⑩ 免疫の仕組みと異常の機序について説明できる。				免疫応答、免疫不全
⑪ 自己免疫疾患、アレルギーの定義、分類、機序、特徴について説明できる。				自己免疫疾患、アレルギー
⑫ 腫瘍の定義、特徴、分類、正常細胞と腫瘍細胞との違いを説明できる。				腫瘍形態、発育機序
⑬ 良性腫瘍と悪性腫瘍との違いを説明できる。				転移ルート、TNM分類
⑭ 先天性異常で遺伝子異常疾患、奇形の原因、種類について説明できる。				単因子性遺伝、多因子性遺伝、染色体異常、 催奇形因子、外表奇形、内臓奇形
⑮ まとめ、テスト				
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	指定教科書（病理学概論 改定第3版 医歯薬出版）、配布プリント			
受講上の注意	配布プリント、教科書には事前に目を通してから講義に臨むこと。講義中は私語厳禁。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：大和宣介	実務経験 (有)・無	医師 医療機関勤務 クリニック開業		
科目名・対象学科	外科学概論			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	2 年	2 単位(30)	前 期	講義
一般目標(GIO)				
外科学全般のうち総論について理解する。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
1) 損傷、創傷、熱傷について理解する。 (創傷の分類、特殊な損傷、創傷治癒を遅延させる因子、熱傷面積と深度) 2) 炎症と外科感染症について理解する。 (丹毒、毛囊炎、せつ、よう、膿瘍、蜂窩織炎、ひょう疽、破傷風、ガス壊疽、真菌症) 3) 腫瘍について理解する。 (腺癌、扁平上皮癌、未分化癌、リンパ行性転移、血行性転移、播種性転移) 4) ショックについて理解する。 (心原性ショック、出血性ショック、血液分布異常性ショック、閉塞性ショック) 5) 輸血、輸液について理解する。 (輸血の適応、供血者条件、輸血の種類、輸液の目的、酸塩基平衡の異常) 6) 消毒・滅菌と手術について理解する。 (消毒と滅菌の違い、主な消毒薬の特徴、主な滅菌法の特徴、フローラ) (皮膚切開法、結紮、外翻縫合、内翻吻合、抜糸、心嚢穿刺、胸腔穿刺) 7) 麻酔と移植免疫について理解する。 (麻酔の種類、筋弛緩剤、麻酔前投薬、悪性高熱症、脊椎麻酔、緩和ケア) (自家移植、同系移植、同種移植、異種移植、わが国の移植、拒絶反応) 8) 出血と止血について理解する。 (出血血管による分類、出血原因による分類、喀血、吐血、止血法)				バイタルサイン デブリドマン ブドウ球菌、溶連菌 嫌気性菌、ウェルシュ菌 癌腫、肉腫 非連続性発育(転移) 急性循環不全 エピネフリン、ショックの5P 交差適合試験 高カロリー輸液 蛋白質の存在 ランゲル皮膚割線 オピオイド ドナー、レシピエント 外出血、内出血 一次止血、二次止血
成績評価	定期試験、授業態度(出席状況含む)、授業中の確認試験(小テスト等)、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	外科学概論、改訂第4版(南江堂)			
受講上の注意	教科書、授業ノートをよく復習すること。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：大和宣介	実務経験(有・無)	医師	医療機関勤務	クリニック開業
科目名・対象学科	整形外科			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	2 年	2 単位(30)	前 期	講 義
一般目標(GIO)				
整形外科全般のうち総論について理解する。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
1)運動器の基礎知識、整形外科診察法について理解する。 (骨、関節、筋、靱帯、腱の基礎知識、運動器の科学、姿勢、跛行、関節拘縮) 2)整形外科検査法、整形外科治療法について理解する。 (CT、MRI、関節造影検査、骨密度測定、関節鏡検査、保存療法、観血的治療) 3)骨・関節損傷総論について理解する。 (骨折の定義と分類、骨折の症状、診断、治療、小児骨折、疲労骨折) 4)スポーツ整形総論について理解する。 (スポーツ活動中の怪我、スポーツ種目と特徴的な怪我、学校体育での重症外傷) 5)感染性疾患、骨および軟部腫瘍について理解する。 (感染性疾患、骨腫瘍、軟部腫瘍) 6)非感染性軟部・骨関節疾患について理解する。 (変形性感染症、関節リウマチ、痛風、偽性痛風、骨粗鬆症) 7)全身性骨・軟部疾患、骨端症について理解する。 (先天性骨系統疾患、くる病、巨人症、各種骨端症) 8)四肢循環障害、神経筋疾患について理解する。 (動脈疾患、静脈瘤、神経麻痺と絞扼性神経障害、全身性神経・筋神経)				骨芽細胞、破骨細胞 マルファン症候群 MD法、YAM 牽引、皮膚移植、人工関節 転位、ソルター・ハリス分類 ウェーバーの分類 スポーツ外傷 スポーツ障害 急性化膿性骨髄炎 骨肉腫 関節リウマチ診断基準 血友病性関節症 モルキオ病 フォン・レックリングハウゼン病 フォルクマン拘縮 脊髄性小児麻痺
成績評価	定期試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	整形外科、改訂第4版(南江堂)			
受講上の注意	教科書、授業ノートをよく復習すること。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師： 芝 明朗	実務経験 (有)・無	講道館柔道 6 段		
科目名・対象学科	柔道 II			柔道整備師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	2 年	1 単位 (30)	通年	実技
一般目標(GIO)				
前年度の目標を引き続いて実践すると共に、礼法、柔道の理合いを理解を深めると、3年次に柔道認定実技審査の審査項目である「投の形」と「約束乱取」について解説し合格を目指す。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
武道(柔道)本来の身体の使い方、動作について「投の形」を学ぶ。 1) 投の形(手技・腰技・足技)各3本合計9本を学ぶ。 ・礼法の諸動作・継足・間合・取の動作・受の動作・姿勢・投げ・受け身等の解説 ・手技(浮落) 同上 ・手技(背負投) 同上 ・手技(肩車) 同上 ・3本通して練習し、80%以上の完成度を目指す。 ・腰技(浮腰) 同上 ・腰技(払腰) 同上 ・腰技(釣込腰) 同上 ・3本通して練習し、80%以上の完成度を目指す。 ・手・腰技6本通して練習し80%以上の完成度を目指す。 ・足技(送足払・支釣込足) 同上 ・足技(内股) 同上 ・足技3本練習し、80%以上の完成度を目指す。 ・9本通して練習し、80%以上の完成度を目指す。 ・約束乱取の完成を目指す。 ・試験実施				基本動作 姿勢・体捌 引き落とす 受け身 背中に担ぐ 受の姿勢 肩に担ぐ 受の姿勢 呼吸・間合・姿勢 継足で飛び込む 重心移動 腰低く吊り上げ 呼吸・間合・姿勢 反復練習 継足 取の動きで回される
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	「柔道実技 虎の巻」 発行所 株式会社メディアパル 著者 森脇 保彦			
受講上の注意	1. 全出席することを原則とする。礼法、柔道の理合いを理解し、最終的に認定実技審査の合格を目指すもの。教科書をよく読んで確認しイメージトレーニングを充分に行って出席すること。 2. やむを得ない理由にて見学した場合、柔道衣に着替えて出席すること。課題も書かせる。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：利根 竜兵	実務経験(有・無)	附属接骨院勤務、湘南ベルマーレ育成トレーナー		
科目名・対象学科	臨床柔整学Ⅲ			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	2 年	2 単位(30)	前 期	講義
一般目標(GIO)				
1年次の柔道整復理論の内容を踏まえて、上肢の骨折を学習する。 主に前腕から手部を学ぶので前腕の筋肉の起始停止も把握する。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
1) 上腕骨骨幹部骨折 骨折の発生機序や症状などを理解できる。				緻密質、偽関節 橈骨神経
2) 上腕骨遠位端部骨折 上腕骨顆上骨折、上腕骨外顆骨折、上腕骨内側上顆骨折 それぞれの骨折の発生機序や症状などを理解できる。				フォルクマン拘縮 回転転位、偽関節
3) 前腕骨骨幹部骨折 単独骨折、両骨骨折 それぞれの骨折の発生機序や症状などを理解できる。				緻密質、偽関節 モンテギア骨折、ガレアジ骨折
4) 手根骨部の骨折 舟状骨骨折、有鉤骨骨折 それぞれの骨・関節の構造、骨折の発生機序や症状などを理解できる。				偽関節、固定期間
5) 中手骨部の骨折 中手骨頸部骨折、中手骨骨幹部骨折、ベネット骨折など				ボクサー骨折、捻転転位
6) 指骨の骨折 それぞれの骨・関節の構造、骨折の発生機序や症状などを理解できる。 基節骨骨折、中節骨骨折、末節骨骨折など				凸変形
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	教科書『柔道整復学・理論編』、参考として『解剖学』			
受講上の注意	マナーよく受講すること。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師： 佐藤 洋平	実務経験 ☒ 有・無	鍼灸接骨院勤務 スポーツジム(メディカル担当)		
科目名・対象学科	臨床柔整学Ⅳ			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	2 年	2 単位 (30)	前 期	講義
一般目標(GIO) 主に下肢の解剖学をふまえながら股関節部、大腿部、膝部、下腿部、足部の軟部組織損傷を学び、単純想起から各疾患の解説までできるようになることを目標とする。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
・大腿骨骨幹部骨折 ・大腿骨頸部骨折 ・股関節軟部組織損傷(鼠径部痛症候群、股関節唇損傷、弾発股、梨状筋症候群、股関節拘縮、単純生股関節炎) ・ペルテス病 大腿骨頭すべり症 変形性股関節炎 ・腸脛靭帯炎 ジャンパー膝 タナ障害 オスグッド・シュラッター病 ・大腿部打撲 肉離れ ・膝蓋骨軟化症 膝蓋大腿関節症 膝周囲の滑液包炎 ・絞扼性神経障害(ハンター管症候群、足根管症候群、モートン病) ・膝離断性骨軟骨炎 ・骨盤骨骨折～大腿骨遠位端骨折～膝蓋骨骨折の復習				開放性骨折 部位別の骨片転位 ガーデン分類、関節包内骨折 仮性延長・短縮、インピンジメント 坐骨神経 ドレーマン徴候、跛行 オーバーユース、クリック音 関節可動域検査、好発部位 関節軟骨、運動時痛、ペーカー嚢腫 伏在神経、足底神経、内転筋管 ウィルソン徴候
成績評価	①確認試験・・・一定の範囲が終わったらその都度、習熟度確認試験を行ないます。(2回実施し各10%を定期試験に加算) ②定期試験・・・記述問題＋選択問題 (80%)			
教科書・副読本	柔道整復理論第6版は必ず準備 すること。※授業ではプリントを配布 (A4orA3) するのでクリアファイルを準備してまとめられるようにしておきましょう。			
受講上の注意	①その講義ごとに集中して内容を覚えること。(時間は有限です) ②配布した授業プリントはよく考えて使用すること。(テスト前の再配布は致しません) ③講義内容に関係のない行為は決してしないこと(スマホ操作や度を越えた居眠りなど)			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師： 芝 明朗	実務経験 (有)・無	接骨院勤務		
科目名・対象学科	臨床柔整学Ⅴ			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	2 年	2 単位(30)	前 期	講義
一般目標(GIO)				
運動器系の正常構造と機能を理解し、運動器を中心とした外傷の原因、症状、診断などの知識を学ぶ。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
股関節脱臼について理解する。 膝関節脱臼について理解する。 足関節部より末梢の脱臼(足関節部、足根部、リスフラン、ショパール、中足趾節関節)について理解する。 骨端症(第1・2ケーラー病、セーバー病)について理解する。 有痛性外脛骨について理解する。 強剛母指、種子骨障害について理解する。 半月板損傷について理解する。 靱帯損傷(側副靱帯・十字靱帯)について理解する。 アキレス腱炎、断裂、滑液包炎について理解する。 踵骨棘、足底腱膜炎について理解する。 足関節捻挫について理解する。 距骨滑車の骨軟骨損傷について理解する。 足根洞症候群について理解する。 腓骨筋腱脱臼について理解する。 衝突性外骨腫について理解する。 三角骨障害について理解する。 足根骨骨折(舟・立・楔)について理解する。				Rose-Nelaton線 screw home movement FTA、Q角 Mikulicz線 複合靱帯損傷 ラウゲ・ハンセンの分類 ポット骨折 デュプイトラン骨折 コットン骨折 チロー骨折 スプリング靱帯 三角骨 外脛骨 扁平足障害
成績評価	科目評価試験、授業態度(出席状況含む)、授業中の確認試験(小テスト等)、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	柔道整復学・理論編 改定第6版 南江堂			
受講上の注意	①全出席刷ることが原則、出席管理は各自で行う。 ②授業中の私語、飲食、携帯電話操作は認めない。 ③疑問点を放置せず、必ず自己解決すること。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：青木 圭輔	実務経験 (有)・無	接骨院勤務、付属接骨院勤務、スポーツトレーナー活動口		
科目名・対象学科	臨床柔整学VI			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	2 年	2 単位(30)	通年	講義
一般目標(GIO)				
頭部・体幹・脊柱部の外傷・障害について理解し習得する。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
頭部・顔面の損傷を理解する。 頭部・顔面の解剖と機能 頭蓋骨骨折、顎関節脱臼、軟部組織損傷 頸部の損傷を理解する。 頸椎の解剖と機能 頸椎の骨折、脱臼、軟部組織損傷 胸・背部の損傷を理解する。 胸・背部の解剖と機能 胸部の骨折、胸椎の脱臼、軟部組織損傷 腰部の損傷を理解する。 腰部、仙骨部の解剖と機能 腰椎の骨折、脱臼、軟部組織損傷				脳頭蓋、顔面頭蓋 頭蓋冠骨折、頭蓋底骨折、上顎骨骨折 顎関節前方脱臼、顎関節症 頸椎、環軸関節、腕神経叢 環椎骨折、頸椎楔状圧迫骨折 環軸関節の脱臼骨折、胸郭出口症候群 外傷性腕神経叢麻痺 胸骨、胸椎 肋骨骨折、胸骨骨折 胸腰椎移行部椎体圧迫骨折 腰椎、仙腸関節 腰椎椎体圧迫骨折
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	柔道整復学 理論編			
受講上の注意	予習、復習をして授業に積極的に参加すること。 授業中の飲食、携帯電話の使用は厳禁とする。□			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師： 森 倫範	実務経験 (有)・無	病院勤務、医院勤務、接骨院勤務		
科目名・対象学科	基礎柔整実技Ⅱ			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	2 年	1 単位(40)	前 期	実技
一般目標(GIO)				
上肢骨(上肢帯および自由上肢骨)における頻度の高い外傷の整復・固定・後療について、実技を通じて講義を展開する。 将来、柔道整復師として必要な情報を網羅し、臨床で実践できる力を養う。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
鎖骨骨折 肩関節脱臼 肩鎖関節脱臼 上腕骨近位端部骨折 上腕骨顆上骨折 肘関節脱臼 肘内障 橈骨遠位端骨折 中手骨・指骨骨折				Desault法、Sayre 法 Hippocrates 法、Milch 法 Tossy 分類 鑑別診断、整復と骨膜の関係 骨膜、内外反力と転位の関係 骨折の合併と軟骨損傷 年齢と組織成熟 関節内骨折、合併損傷 Jahss 90-90 法、指背腱膜
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	柔道整復学（南江堂）理論編（第6版）・実技編（第2版） Rockwood & Green's Fractures (7th-ed, Lippincott Williams & Wilkins)			
受講上の注意	講義毎に連続した内容になっています。体調に留意してください。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：山崎由紀也	実務経験(有・無)	接骨院勤務・鍼灸接骨院開業		
科目名・対象学科	基礎柔整実技Ⅲ			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	2 年	1 単位(40)	前 期	実 技
一般目標(GIO)				
柔道整復師の根幹である下肢外傷について学ぶ。初期評価、初回処置、後療法など外傷の発生から治癒までの治療計画を立案できるようになる。骨折、脱臼、打撲、捻挫、挫傷の基本的な処置ができるようになる。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
1	講義内容・具体的到達目標(SBOs)等			学習のキーワード
1	ガイダンス 包帯法を復習することで手の感覚を再想起する			評価 処置 後療法を学ぶ
2	足趾の骨折の施術について実施できる			評価 処置 後療法を学ぶ
3	中足骨骨折の施術について実施できる			評価 処置 後療法を学ぶ
4	踵骨骨体部骨折の施術について実施できる			評価 処置 後療法を学ぶ
5	果部骨折の施術について実施できる			評価 処置 後療法を学ぶ
6	下腿骨骨幹部骨折の施術について実施できる			評価 処置 後療法を学ぶ
7	膝蓋骨骨折の施術について実施できる			評価 処置 後療法を学ぶ
8	大腿骨骨幹部骨折の施術について実施できる			評価 処置 後療法を学ぶ
9	大腿骨頸部骨折の施術について実施できる			評価 処置 後療法を学ぶ
10	膝関節脱臼の施術について実施できる			評価 処置 後療法を学ぶ
11	膝蓋骨脱臼の施術について実施できる			評価 処置 後療法を学ぶ
12	足趾の脱臼の施術について実施できる			評価 処置 後療法を学ぶ
13	まとめ			
14	実技試験			
15	座学試験 フィードバック			
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	柔道整復実技 柔道整復理論 標準整形外科学			
受講上の注意	①全日程出席すること。②トイレは授業前に済ましておくこと。③授業中は講師の指示に従うこと。④メモをとる習慣をつけること。⑤学ぶ意志を強く持つこと			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：小野 博道	実務経験(有・無)	スポーツトレーナー・接骨院・クリニック・病院・接骨院開業		
科目名・対象学科	画像評価実技 I			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	2 年	1 単位(40)	前 期	実技
一般目標(GIO)				
超音波画像装置(エコー画像)を正しく使用し、体表解剖より画像描写を行う方法を学び、画像読影を習得し、臨床で評価する方法を習得する。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
・超音波画像装置の使用方法 取り扱い方法・プローブの扱いについて ・超音波の仕組みv B-mode カラー Doppler について ・長軸、短軸の見方 長軸像、短軸像の見方について ・各部位の観察 描出させたい上肢の骨、各関節、筋、靱帯を触診し超音波画像装置で描出する。 描出させたい下肢の骨、各関節、筋、靱帯を触診し超音波画像装置で描出する。 描出させたい体幹の骨、各関節、筋、靱帯を触診し超音波画像装置で描出する。				超音波画像装置 プローブ B-mode カラー Doppler アーチファクト ランドマーク
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	運動器の超音波（南山堂）			
受講上の注意	KC必ず着用で出席する事			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：岡村 安優	実務経験(有・無)	リハビリテーションクリニック勤務、病院勤務		
科目名・対象学科	リハビリテーション学			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	3 年	2 単位 (30)	前 期	講義
一般目標(GIO)				
海外における物理医学とリハビリテーションの歴史的背景から、本邦におけるリハビリテーション医学ならびに医学的リハビリテーションの位置づけを理解する。またリハビリテーション医学に基づく一般的な考え方、評価およびその介入方法を理解し、実際の診療に生かすことができるようになる。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
1)リハビリテーション医学の概念と歴史について理解する				物理医学・リハビリテーション
2)リハビリテーション医学の関連職種について理解する				リハビリテーション・PT・OT
3)運動器疾患のリハビリテーションについて理解する				筋性疼痛
4)運動器疾患のリハビリテーションについて理解する				ストレッチ・マッサージ
5)誤用症候群・過用症候群のリハビリテーションについて理解する				姿勢・動作分析
6)誤用症候群・過用症候群のリハビリテーションについて理解する				野球肘・ジャンパー膝・OA
7)退行変性疾患・スポーツ疾患のリハビリテーションについて理解する				物理療法
8)退行変性疾患・スポーツ疾患のリハビリテーションについて理解する				物理療法
9)脳血管疾患・変性疾患のリハビリテーションについて理解する				発生机序・病態理解
10)脳血管疾患・変性疾患のリハビリテーションについて理解する				ADL指導・装具療法
11)老年期疾患のリハビリテーションについて理解する				FIM・BI
12)老年期疾患のリハビリテーションについて理解する				認知症・高次脳機能障害
13)廃用症候群のリハビリテーションについて理解する				骨粗鬆症・サルコペニア
14)廃用症候群のリハビリテーションについて理解する				関節拘縮・運動療法
15) 定期試験				理解度の確認
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	指定教科書「リハビリテーション医学」南江堂			
受講上の注意	リハビリテーション医学の理解に必須となる、解剖学・運動学・生理学の復習をしたうえで授業に参加すること。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師： 芝 明朗	実務経験(有・無)	講道館柔道 6 段		
科目名・対象学科	柔道Ⅲ			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	3 年	1 単位 (30)	前 期	実技
一般目標(GIO)				
柔道認定実技審査の審査項目「投の形:手技・腰技・足技」9本と約束乱取について解説と実践し合格を目指す。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
武道(柔道)本来の身体の使い方、動作について「投の形」を学ぶ。 1) 投の形(手技・腰技・足技)各3本合計9本を学ぶ。 ・礼法の諸動作・継足・間合・取の動作・受の動作・姿勢・投げ・受け身等の解説 ・手技(浮落) 同上 ・手技(背負投) 同上 ・手技(肩車) 同上 ・3本通して練習し、100%以上の完成度を目指す。 ・腰技(浮腰) 同上 ・腰技(払腰) 同上 ・腰技(釣込腰) 同上 ・3本通して練習し、100%以上の完成度を目指す。 ・手・腰技6本通して練習し100%以上の完成度を目指す。 ・足技(送足払・支釣込足) 同上 ・足技(内股) 同上 ・足技3本練習し、100%以上の完成度を目指す。 ・9本通して練習し、100%以上の完成度を目指す。 ・約束乱取の完成を目指す。 ・試験実施				基本動作 姿勢・体捌 引き落とす 受け身 背中に担ぐ 受の姿勢 肩に担ぐ 受の姿勢 呼吸・間合・姿勢 継足で飛び込む 重心移動 腰低く吊り上げ 呼吸・間合・姿勢 反復練習 継足 取の動きで回される
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	「柔道実技 虎の巻」 発行所 株式会社メディアパル 著者 森脇 保彦			
受講上の注意	1. 全出席することを原則とする。礼法、柔道の理合いを理解し、最終的に認定実技審査の合格を目指すもの。教科書をよく読んで確認しイメージトレーニングを充分に行って出席すること。 2. やむを得ない事由にて見学した場合、柔道衣に着替えて出席すること。課題も書かせる。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師： 小野 博道	実務経験 (有・無) ☒ 有	スポーツトレーナー・接骨院・クリニック・病院・接骨院開業		
科目名・対象学科	関係法規			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	3 年	2 単位 (30)	通年	講義
一般目標(GIO)				
柔道整復師としての今後の生活面において、常にコンプライアンス厳守を求められる。医療人として必要な法規を学び、柔道整復師として知っておかなければならない「柔道整復師法」とその関係法規を知る。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
法の概要について理解できる ・法の意義・体系を知る 柔道整復師法について理解できる ・総論 目的 定義を知る 免許について理解できる ・免許の説明 要件 申請 名簿を知る 柔道整復師の試験・業務について理解できる ・業務禁止 業務範囲 守秘義務を知る 施術所について理解できる ・施術所の届出 構造設備 監督を知る 広告・罰則などの雑則について理解できる ・両罰規定を知る 医療法について理解できる ・医療従事者の身分関係法 医療法を知る 関係法規について理解できる ・社会福祉関係法規等を知る				時事問題 六法 柔道整復師法 目的 免許 業務範囲 施術所 罰刑法定主義 医療法
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	関係法規 南山堂			
受講上の注意	授業中の飲食、携帯電話の使用は禁止とする。説明の最中は私語を禁止とするが、説明後の確認時間は積極的に会話をし、より理解を深めることに注力すること。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：小粥博樹	実務経験 (有)・無	医師 大学病院・医療機関勤務		
科目名・対象学科	柔道整復術の適応			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	3 年	2 単位(30)	通 年	講 義
一般目標(GIO) 整形外科全般のうち柔道整復師が日常診療で鑑別すべき病態(画像所見含む)について理解する。 病態把握後の医師への適切なコンサルテーションとは何か。その方法や具体的手順について理解する。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
1)柔道整復術の適否について理解する。(スクリーニング) 2)運動器損傷の類似症状について理解する。 重篤な病態が隠れている疼痛。化膿性疾患(感染性疾患との鑑別)、悪性疾患との鑑別 (CT、MRI、関節造影検査、骨密度測定、関節鏡検査、保存療法、観血的治療) 3)外傷に伴う血管損傷・神経損傷について理解する。(重篤症状との鑑別) 処置:創外固定、植皮、薬物療法による経過観察→感染性症状への対応 4)脱臼骨折について理解する。(観血的整復および内固定) 5)病的骨折及び病的脱臼について理解する。 (骨腫瘍、軟部腫瘍) 6)意識障害のある患者について理解する。 (頭蓋骨(頭蓋底)骨折、脳血管障害、その他内科疾患) 7)外傷による脊髄損傷について理解する。 頸髄損傷、胸髄損傷、腰仙髄損傷 8)胸郭臓器損傷、骨盤内臓器損傷について理解する。 9)高エネルギー損傷の合併症状について理解する。				業務範囲を鑑別すべき症状 診断に必要な検査 腰痛、椎間板ヘルニア 動脈損傷、腕神経叢損傷 開放性骨折とその合併症 急性化膿性骨髓炎・関節炎 手術適応の外傷、手術手技 骨肉腫、内軟骨腫、骨軟骨腫 頭部外傷、頭部CT・MRI 他科へのコンサル 脊椎脱臼・骨折 外傷性ショック、DIC,FES, DVT,PTE
成績評価	定期試験、授業態度(出席状況含む)、授業中の確認試験(小テスト等)、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	医療の中の柔道整復(南江堂)			
受講上の注意	授業内容をよく聴いてその理解について努力すること。教科書、授業ノートを作成し、よく復習すること。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：土江 健太郎	実務経験 (有)・無	医師、大学病院勤務、病院・診療所勤務		
科目名・対象学科	疾病と傷害演習			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間)・実施学期・講義形式	3 年	2 単位(30)	前 期	講 義
一般目標(GIO)				
一般臨床医学(内科学)を学習することで、代表的内科疾患の概要および診療ガイドラインを知る。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
各種疾患の概要、診療ガイドラインを知る				
1. 呼吸器疾患について理解する。				COPD、肺炎、結核、薬剤耐性
2. 循環器疾患について理解する。				高血圧
3. 消化管疾患について理解する。				ヘリコバクター・ピロリ
4. 肝胆膵疾患について理解する。				肝硬変、ウイルス肝炎
5. 代謝疾患・生活習慣病について理解する。				脂質異常症、メタボリックシンドローム、肥満症、高尿酸血症
6. 内分泌疾患について理解する。				各種内分泌疾患
7. 血液・造血器疾患について理解する。				白血病、HIV/AIDS、再生不良性貧血、特発性血小板減少性紫斑病、血友病
8. 腎・尿路疾患について理解する。				AKI、CKD
9. 神経疾患について理解する。				意識障害、認知症、運動麻痺、不随意運動、運動失調、頭痛
10. 感染症について理解する。				風疹、梅毒、ヘルペスウイルス、血液媒介感染症、性行為感染症、薬剤耐性
11. 自己免疫疾患について理解する。				リウマチ、膠原病、アレルギー
12. 悪性腫瘍について理解する。				各種悪性腫瘍の病態の特徴
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	一般臨床医学 改訂第3版 全国柔道整復学校協会 編 医歯薬出版株式会社			
受講上の注意	全出席することを原則とし、講義内容よく聴講してノートをしっかり取ること。また、疑問点を放置せず、調べたり質問したりして必ず自己解決すること。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：赤池 誠司	実務経験(有・無)	接骨院勤務		
科目名・対象学科	臨床柔整学Ⅶ			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	3 年	2 単位(30)	前 期	講 義
一般目標(GIO)				
日常臨床で遭遇する機会の多い外傷について、その病態診察から施術に至る過程を学習する。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等			学習のキーワード	
定型的鎖骨骨折の診察及び整復・固定を理解する。 上腕骨外科頸骨折の診察及び整復を理解する。 上腕骨骨幹部三角筋付着部より遠位骨折の固定を理解する。 コーレス(Colles)骨折の診察及び整復・固定を理解する。 第5中手骨頸部骨折の固定を理解する。 肋骨骨折の固定を理解する。 肩鎖関節上方脱臼の診察及び整復・固定を理解する。 肩関節烏口下脱臼の診察及び整復・固定を理解する。 肘関節後方脱臼の診察及び整復・固定を理解する。 肘内障の診察及び整復を理解する。 示指PIP関節背側脱臼の固定を理解する。 軟部組織損傷の施術について理解する。 下腿骨骨幹部骨折の固定について理解する。			基本包帯法、冠名包帯法 絆創膏固定法 肩板損傷、上腕二頭筋長頭腱損傷 大腿部打撲、肉離れ 膝側副靱帯損傷、十字靱帯損傷 膝半月板損傷、下腿三頭筋肉離れ アキレス腱断裂、足関節外側靱帯損傷	
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	柔道整復学 実技編			
受講上の注意				

令和 2 年度 講義計画書

担当講師： 山下 昌一	実務経験(有・無)	整形外科勤務、接骨院勤務		
科目名・対象学科	臨床柔整学Ⅷ			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	3 年	2 単位 (30)	前 期	演 習
一般目標(GIO)				
1、2年次に履修した生理学の復習を演習形式で行うことで、国家試験に合格するための知識を身につける。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
国家試験で出題が予想される生理学分野のあらましを理解する。 1)生理学の基礎 物質の輸送、細胞内小器官の働きを説明できる。 2)血液の生理学 血液の役割、成分、免疫機構、血液型の説明ができる。 3)消化と吸収 消化器系のはたらきについて説明できる。 4)呼吸の生理学 呼吸器系のはたらきについて説明できる。 5)尿の生成と排泄 尿器系のはたらきについて説明できる。 6)生 殖 生殖器系のはたらきについて説明できる。 7)体液の生理学 体液のイオン組成や恒常性、酸塩基平衡を説明できる。				拡散、浸透、ろ過、能動輸送 細胞内小器官 血漿、細胞成分 免疫、ABO式血液型 消化管の運動、消化液 消化管ホルモン 呼吸筋、胸膜腔内圧、陰圧 肺容積の区分、酸素解離曲線 クリアランス、糸球体ろ過 水・Naの再吸収、排尿反射 性分化、精子形成 卵巣周期と月経周期 浸透圧と体液量 酸塩基平衡
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	生理学 南江堂 項目毎の配付資料			
受講上の注意				

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：赤堀 真紀	実務経験(有・無)	接骨院勤務		
科目名・対象学科	臨床柔整学Ⅸ			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	3 年	2 単位(30)	前 期	講義
一般目標(GIO)				
内臓器の構造について理解でき、説明できる。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
1) 消化器系の構造について理解でき、説明ができる。 2) 呼吸器系の構造について理解でき、説明ができる。 3) 泌尿器系の構造について理解でき、説明ができる。 4) 生殖器系の構造について理解でき、説明ができる。				唾液腺、大網、肝小葉、グリソン鞘 副鼻腔、喉頭軟骨、肺、気管支 腹膜後器官、腎筋膜、腎小体 精細管、月経周期、卵胞、胎盤
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	解剖学（医歯薬出版）、プロメテウス解剖学アトラス（医学書院）			
受講上の注意	授業に関係のない行為は慎むこと。 資料の再配布はしないので各自で保管すること。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：青木 圭輔	実務経験(有・無)	接骨院勤務、付属接骨院勤務、スポーツトレーナー活動		
科目名・対象学科	応用実技 I			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	3 年	1 単位(40)	前 期	実技
一般目標(GIO)				
各損傷に対して整復後から固定処置まで一連の流れを修得する。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
1) 第5中手骨頸部骨折 アルミ副子掌側固定 2) 手第2指PIP関節背側脱臼 アルミ副子背側固定 3) 下腿骨骨幹部骨折 クラーメル副子固定 4) アキレス腱断裂 クラーメル副子固定 5) 足関節外側靱帯損傷 局所副子固定 6) 膝関節内側側副靱帯損傷 Xサポートテープ固定 7) 足関節外側靱帯損傷 バスケットウィーブテープ固定 8) 足関節外側靱帯損傷 フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定				固定材料 患者への説明 助手への指示 固定材料の使用手法 固定後の確認 固定の目的 固定肢位 固定範囲 固定期間
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	柔道整復学・実技編 認定実技審査要項「平成30年度改訂版」			
受講上の注意	授業中の飲食、携帯電話・スマートフォンの使用は厳禁とする。積極的に実技練習に取り組むこと。KC上下の着用すること。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師： 山下 昌一	実務経験(有・無)	整形外科勤務、接骨院勤務		
科目名・対象学科	応用実技Ⅱ			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	3 年	1 単位(40)	前 期	実 技
一般目標(GIO)				
1,2年次に修得した知識・技術を基に、認定実技審査に合格できる水準まで実技能力を高めることを目標とする。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
各骨折、脱臼の病態を把握し、適切な整復操作を実践する。 1)鎖骨定型的骨折における診察および整復 特徴的な症状の説明ができる。診察および整復を実践できる。 2)上腕骨外科頸外転型骨折における診察および整復 特徴的な症状の説明ができる。診察および整復を実践できる。 3)コーレス骨折における診察および整復 特徴的な症状の説明ができる。診察および整復を実践できる。 4)肩鎖関節上方脱臼における診察および整復 特徴的な症状の説明ができる。診察および整復を実践できる。 5)肩関節前方烏口下脱臼における診察および整復 特徴的な症状の説明ができる。診察および整復を実践できる。 6)肘関節後方脱臼における診察および整復 特徴的な症状の説明ができる。診察および整復を実践できる。 7)肘内障における診察および整復 特徴的な症状の説明ができる。診察および整復を実践できる。				転位と変形 坐位整復法 外転転位、前内方凸変形 脱臼との鑑別 骨片転位、牽引直圧法 フォーク状変形、銃剣状変形 肩鎖靱帯、烏口鎖骨靱帯 階段状変形 関節部の変形 コッヘル法、ヒポクラテス法 骨折との鑑別 ヒューター線、肘頭高位 回外不能 回内法、クリック音、整復確認
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	柔道整復学・実技編 南江堂 項目毎の配付資料			
受講上の注意	授業中の飲食や、授業と関係のない行動は禁止とします。			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：赤池 誠司	実務経験 (有)・無	接骨院勤務		
科目名・対象学科	応用実技Ⅲ			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	3 年	1 単位(40)	前 期	実 技
一般目標(GIO) 日常臨床で遭遇する頻度の高い外傷の施術を学ぶ。いままで学んだ診察・整復についてそれらを臨床応用できるような施術をする。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
鎖骨骨折の固定について実践できる。 肋骨骨折の固定について実践できる。 上腕骨骨幹部骨折の固定について実践できる。 コーレス骨折の固定について実践できる。 肩鎖関節上方脱臼の固定について実践できる。 肩関節前方脱臼の固定について実践できる。 肘関節後方脱臼の固定について実践できる。				
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	柔道整復認定実技審査要領			
受講上の注意				

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：鳥海 剛史	実務経験(有・無)	整形外科勤務・鍼灸整骨院勤務		
科目名・対象学科	応用実技Ⅳ			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	3 年	1 単位(40)	前 期	実 技
一般目標(GIO)				
認定実技審査に全員無事に合格する為に基本的な部分から応用まで、実技を習得する。 診察能力、整復・検査能力、固定能力を習得する。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
認定実技審査認定実技審査とはどのような審査なのかを知る。 実際の流れを体験してみる。 実際に時間を計って体験してみる。 肩腱板損傷の検査法を実践する。 上腕二頭筋長頭腱損傷の検査法を実践する。 ハムストリング損傷(肉離れ)の検査法を実践する。 大腿四頭筋打撲の検査法を実践する。 膝関節側副靱帯損傷の検査法を実践する。 膝関節十字靱帯損傷の検査法を実践する。 膝関節半月板損傷の検査法を実践する。 下腿三頭筋損傷(肉離れ)の検査法を実践する。 足関節外側側副靱帯損傷の検査法を実践する。				診察、整復、検査、固定 モデル、助手の指名 発生機序と来院肢位 正しい固定材料の選択 患者の誘導、説明 脱衣の介助 整復、検査前の確認 局所症状の確認 整復、検査の実践 固定操作 整復、検査、固定後の確認
成績評価	科目評価試験、授業態度(出席状況含む)、授業中の確認試験(小テスト等)、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	柔道整復学・実技編(改訂第2版)、包帯固定学(改訂第2版) 南江堂 適宜プリントを配布するが再配布はしないので注意する事。			
受講上の注意	授業中は認定実技審査に合格する事だけに集中する事。時間の許す限り練習を何度も繰り返す事。医療従事者に相応しい振る舞いをする事。(KC、爪、髪型は清潔を保つ事、アクセサリーの禁止を守る事。)			

令和 2 年度 講義計画書

担当講師：専任教員	実務経験 有・無			
科目名・対象学科	統合教育Ⅲ			柔道整復師科
配当年次・単位数(単位時間) 実施学期・講義形式	3 年	9 単位 (270)	通年	講義・実技
一般目標(GIO)				
基礎分野・専門基礎分野・専門分野で学んだ基礎を、臨床教育と統合させ医療知識を深める事を目標とする。				
授業計画・内容・到達目標(SBOs)・学習のキーワード				
講義内容・具体的到達目標(SBOs)等				学習のキーワード
柔道整復師として必要な解剖学・生理学を復習する。 ・疾病評価に必要な体表解剖・運動器解剖がわかる。 ・疾病評価説明に必要な創傷治癒過程がわかる。 柔道整復学を復習する。 ・教科書上の理論と、臨床との違いがわかる。 国家試験出題基準に沿った知識を深める。 ・総合的な知識を深め、国家試験合格に向け準備をする。				
成績評価	科目評価試験、授業態度（出席状況含む）、授業中の確認試験（小テスト等）、提出物などの総合評価とし、学校の定める試験評価に準ずる。			
教科書・副読本	全ての教科書			
受講上の注意	総合的評価となり、令和2年12月23日・令和3年2月19日それぞれ評価基準を満たす必要がある。出席日数にも注意すること。			